「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫

▼▲▼

◇◆◇　No.0668　◇◆◇　　21/12/29

【　来年の注目要因のひとつは各国選挙、とくに「米韓」要注意　】

為替を中心とした来年の金融市場に影響を与えそうな材料は、現段階で大きく 4 つあると考えている。すなわち「米中あるいは日米欧 vs 中露の対立深化」、「日米欧英などによる金融政策」、「新型コロナの変異止まらず、感染拡大も続く」ーーの 3 つと、「世界的に重要な選挙が相次ぐ」ことになりそうだ。
そのうち最後に挙げた「世界の重要な選挙」をもう少し詳しく説明すれば、日本の参院選が遅くとも夏までに実施されるほか、米国と韓国、イタリアやフランスなどの選挙にも注目だ。今回の当レターでは、うち米韓の選挙について「第一報」ということで以下にて取り上げてみたい。

<< 米国;11 月の中間選挙　>>
4 年に一度の大統領選から、2 年後に行われる国・地方の統一選挙全般を指す。
そのなか、金融市場でとくに注視されているものが連邦議会選。上院（任期 6 年、定数 100）の約 3 分の 1 に当たる 34 議席と下院（任期 2 年、定数 435）の全議席が争われる見込みだ。ちなみに、現段階でバイデン米大統領の所属する民主党は上院で同党系無所属 2 議席を含む 50 議席、下院で 221 議席を有しており、両院とも主導権を握っている。そんな優位性が、中間選挙後も維持されるのかが最大のポイントとなろう。

しかし過去を遡ると、中間選挙は与党に厳しい結果となることが多く、実際いまから 4 年前、トランプ前政権の共和党は導入した「大型減税」の恩恵なく下院で過半数を失っている。
また米キニピアク大学は、今年 11 月に行った「もし 2022 年中間選挙が今日行われたら」と題した世論調査の結果として、下院選挙で「共和党」が 46%、「民主党」が 38%となり、共和党の支持率が上回ったと発表していた。まだ一年近く先のこととはいえ、鳴り物入りで大統領に就任したバイデン氏の支持率がジワジワと落ち込みつつあることは複数の世論調査で観測されていることと併せると、チョッと気になる要因かも知れない。

なお、最後に経験則を参考に為替市場の動きを見てみると、「米中間選挙実施年」には 2 つの特徴があるようだ。
ひとつは「やや動意の乏しくなる傾向がある」ことで、今年は 2017 年以来となる「大相場」をたどったドル/円だったが、ヒョッとすると来年は再びレンジ取引へと戻ってしまう危険性も否定できない。また、1990 年以降前回までという 8 回中 6 回が「ドル安・円高」へと振れていたことも、頭にとどめておいて損はない気もしている。

<< 韓国;3 月の大統領選挙　>>
1 期 5 年の韓国大統領選が来年 3 月に実施される。日本にとってはもっとも近い隣国でありながら、従軍慰安婦問題などの蒸し返しもあり、現在の両国関係は過去最悪。果たして、それが少しでも改善へと向かうのか、それとも関係はさらに悪化し、いよいよ危機的状況を迎えてしまうのか。その重要なメルクマールが来年の韓国大統領選ということになりそうだ。

ちなみに、現地メディアによると「本命不在」の状況下ながら、保守系野党「国民の力」の尹錫悦（ユン・ソクヨル）前検察総長が、与党「共に民主党」の李在明（イ・ジェミョン）前京畿道知事らを、わずかにリードしているもよう。そんな尹氏は今年 11 月、参加した国内のフォーラムで「わたしは国内政治に外交を利用しない」としたうえで、「国民を親日と反日に分けて日韓関係を過去に縛っておく過ちを繰り返さない」と述べていた。さらに「不信と冷笑でふさがっている日韓関係を改善し、未来志向的な関係にしようと考える」と続けたという。
これだけをみれば、「親日」と言えなくもないが、果たして如何に!?両候補を中心に、スキャンダル合戦が相次いでおり先行きは依然不透明でまだまだ予断を許さない。この先、まだまだ二転三転ある気がしている。（了）

ーー末筆になりましたが、当稿が今年最後のレターとなります。今年も御愛読ありがとうございました。来

年が皆さまにとって良い一年でありますように。なお、来年の原稿は 1 月 5 日付からとなります。よろしくお願い申し上げます。

▼▲
当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright （C） fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter